本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3―7―28　宝幸西新宿ビル
電話03（343）1846代表
振替口座　東京 172320
〒543 支局　大阪市天王寺区勝山2―202
電話06（771）7415

全国婦人新聞

ご購読料
1年　3,000円
（郵送料とも）
現金・切手・振替で前納
（月3回発行）
10日・20日・30日

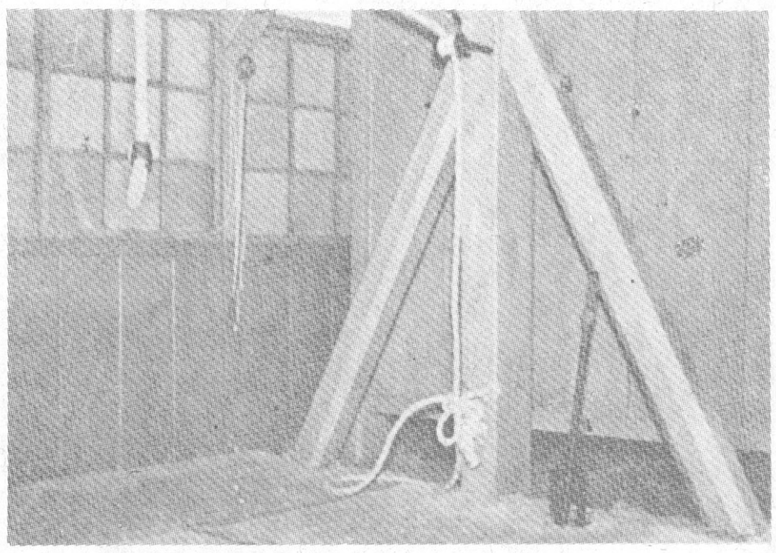
長い目でビジョンを育てる
興銀

「死刑をなくす女の会」が1000人集会

死刑は止めて！

九月十八日、フランスの国民議会（下院）は、死刑廃止法案を可決、同国の一九〇年にもわたるギロチン死刑に終止符を打った。フランスの死刑廃止で、死刑制度を持つ国は、ヨーロッパでは事実上皆無となるわけだが、日本では未だに存続。執行件数は減っているものの、毎年、一〇人前後が処刑され、その数は、先進国でも第一位という不名誉な記録を誇っており、人権を守る国際救援機構であるアムネスティ・インターナショナルを通し、日本の死刑制度には、鋭い批判が寄せられている。日本でも、昭和三十年代に弁護士の正木亮氏、歴史学者の羽仁五郎氏らによって、死刑廃止が強く訴えられ、現在では、六団体が死刑廃止運動を展開中だ。その中の、女性ばかりが呼びかけ人となっている「死刑をなくす女たちの会」が、十一月三十日、東京・品川公会堂で千人集会を開催、死刑廃止を強く訴える。活動をはじめて、まだ半年に満たないが、フランスのギロチン死刑廃止のニュースが流れる中で、十一月集会にむけ、熱い女の血をたぎらせている。

権力と法の殺人では
反響も大、会員も百人に


旧大阪拘置所の刑場内。右手のハンドルを引くと刑壇が落ちてすべて終わる――死刑囚の生涯を書いた、丸山友岐子の著書「逆うらみの人生」にアサヒグラフから転載された写真

テレビ対談の一時をキッカケに……

「死刑をなくす女たちの会」が発足したのは今年の四月四日。昨年の暮れ、参議院議員の中山千夏さんとフリー・ライター丸山友岐子さんが、死刑制度廃止の問題で、テレビ朝日の〝ジャーナル女の目〟で対談したのが、この会のスタートのきっかけとなった。

中山さんは、参院選で死刑廃止を公約にしての当選、丸山さんは十七～八才の頃ヴィクトル・ユーゴーの〝死刑囚最後の日〟を読んで以来の死刑廃止論者だったから、息はピッタリ合ってしまった。

「男がいると、面倒くさい理屈ばかりこねてややこしいし、お金だけくれればいい。死刑をやめた方がいいと言うのは女の方だし、女だけで楽しくやろう」と女だけの会としてスタートした。

初めは脅迫電話も段々賛同者がふえ

現在、会員数は約一〇〇名「こんなにも集まってくれるなんて予想もしていなかった」（丸山さん）

そうで、今までに何回か集まって相談ごとや、やりたいことなど言い合う程度の会合はあったが、活動はまだまだこれから。当面は十一月三十日の集会にむけての準備に大わらわというところだ。

「今は、全国から甲し込みの電話が…」と丸山友岐子さん

最初はビビッなそうだ。だが、何か始めたら、こんな電話はつきものと開きなおった。

今では全国からの賛同、会員申し込みの電話に変わった。

来る日も来る日もかかる電話に破してやる」

「そんなアホなことやったら、お前の家族を殺してやる」「お前を死刑にしてやる」「事務所を爆

同会発足の反響は大きかった。それも、賛成派ではなく反対派の男性からで、多い時は一日に二十本、一日十本の脅迫電話はザラだった。

「こんなにもやめてほしいと思っている人がいるのやから、その気持ちを汲み上げて、死刑廃止法案実現へどのように持っていくかが、今後の活動のねらい」と丸山さん。

賛否両論あるが話し合いの中から

会の中での話し合い、学習の中から、なぜ死刑廃止なのかという思いを深めあい、どうしたら世論を盛り上げて死刑廃止を実現させていくか――。

最近の若い人の中には、日本での死刑がどのように行われているのか知らない人がいるのが現状。

「自分さえまじめに生活していれば、絶対に死刑になんかならない。でも悪いことをした人が殺されるのはあたり前」と考えている人に、犯罪をおこした人でも一つの生命があるのだ、殺しもむごいことだが、国家権力で生命を奪うこともむごい。そのことを、どうやって周知徹底させ目覚めさせていくのか。課題はつきない。

死刑については、賛否両論、いろいろなんが、さまざまな意見を持っている。「悪いことをした人が死刑になって殺されるのは当たり前」「一人の生命は地球より重いと言って殺人を禁じながら、権力と法による殺人を肯定しているのは矛盾している」etc……。

犯罪数と関係なし

ヨーロッパで、死刑を廃止する前と後の統計をとったところ、犯罪数に何ら変わりはなかったという。犯罪は死刑の有無で起こるのではなく、社会状況によって起こるものなのだ。

死刑は、人間から反省の余地も再出発の機会も完全に奪い去る刑罰で、どんな人間にも認められるはずの生存権を国家の力で奪う仕組み――だからなくそうというのが、死刑廃止運動の基本。

また、死刑は冤罪による死刑囚の再生産に拍車をかけることにも一役かっている。

現在、日本では、「帝銀事件」「免田事件」「財田川事件」「松礼事件」「島田事件」と死刑が無罪かをめぐって再審で争っている事件がある。

えん罪だったら？

「生命さえあれば、冤罪かどうか確かめられる。死んで（死刑）から無罪になったって……」と丸山さんは怒りをぶちまける。

日本では、死刑になるか無期懲役になるかは判事が選ぶ。同じ事件でも判決が違ったりする。これはもう、人間の生命を持て遊んでいることだ、とも。

「判事さんには悪いけど判事だって商売。裁判が公正だなんて幻想にすぎない。判事だって人間でしょ。朝、出がけに夫婦げんかでもしてて、頭にきてて死刑なんて思わず言ってしまうことがあるかも知れない。死刑さえやめとけば、生きている間に何かわかるかも知れないんだし」

死刑廃止は、本当は超党派で取り組んでほしいところ。このままで死刑が存続して、国家が右旋回すれば、国家権力にかかる者は、見せしめとして死刑になるかもしれないからだ。反体制派がもっと真剣に取り組んでくれてもいいはずなのに、それをしないのは、自分たちが主導権を握った時に死刑を武器にする腹づもりがあるからだ、とも。

三部に分けてアッピール

同会のこうした訴えは、十一月三十日の集会でアピールされる。テーマは「死刑は止めて！」。三部構成で、午後六時から東京・品川公会堂で開かれる。

第一部は永井純さん出演で「死刑はやめましょう」。第二部は、歌と絵とことばによるメッセージ、第三部は「そして私たちは……」、集会アピールと続く。

この集会は、瀬戸内寂聴、羽仁五郎、倉田哲治各氏ほか多くの賛同者を得て行われるもの。死刑廃止を求める多くの人々の参加を呼びかけている。「死刑をなくす女の会」〒一六〇東京都新宿区大久保一―三二一九コスモマンション二〇一号ライムライト内☎〇三―二〇九―八五三九。

アフリカに救援の手を！

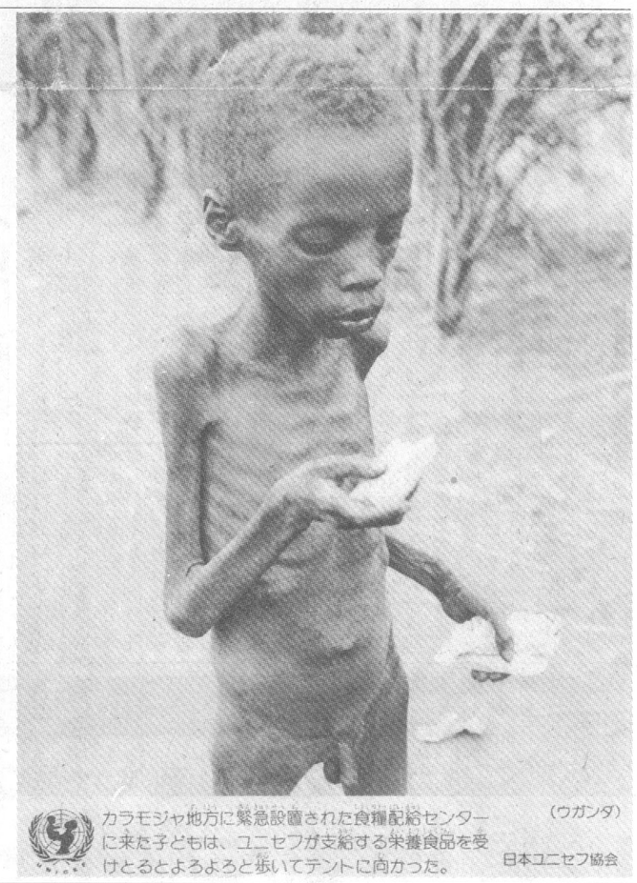
今、アフリカでは数年続きの干ばつと紛争のために二千万人以上の人々が餓死寸前にある。

日本ユニセフ協会は一月末から「アフリカ飢餓救援募金」を続けている。七月三十一日現在で一万五千件、一億七千九百万円の応募があった。

また協会では青少年婦人団体地域組織、宗教団体、有志グループなど団体向けに〝飢餓アフリカ〟の写真セット（十六枚一組）を作り、救援のリーフレット、ポスターを無料で提供している。希望する団体は左記へ申し込んで下さい。

〒106　東京都港区麻布台三―一―二　☎03（583）4407・7075

日本ユニセフ協会・アフリカ救援会


カラモジャ地方に緊急設置された食糧配給センターに来た子どもは、ユニセフが支給する栄養食品を受けとるとよろよろと歩いてテントに向かった。（ウガンダ）
日本ユニセフ協会

身近かで興味のある学びの場

芭蕉記念館
芭蕉の真筆や肖像
真鍋コレクション　遺愛の石蛙

芭蕉館の入口、門をくぐると日本庭園がある

館内風景

芭蕉記念館は都営新宿線森下駅に近い隅田川べりにある。鉄筋コンクリート三階建てで白壁、旅笠型どった丸みをおびた銅板ぶきの青い屋根が目につく。〝一所不住――漂泊の思いやまず、生涯を孤高の旅にかけた芭蕉の記念館らしい。館の前には竹をあしらい、その横の簡素ながら趣きある門をくぐると庭園。築山の滝が池にそそいで清々しい。

滝のそばに〈ほろほろと山吹ちるか滝の音〉芭蕉の句が書かれた木札が立っていた。ほかにも素材となった草花や木々が二十種以上も植えてあって、それぞれの句が添えられている。椿には〈うぐいすの笠おとしたる椿かな〉梅には〈旅がらす古巣はむめ（うめ）になりけり〉、萩は〈一家（ひとつや）に遊女もねたり萩と月〉…と。

築山に登ると、塀のすぐ下が隅田川である。いまは両岸にはビルが建ち並んでいる。延宝八年（一六八〇）、三十七歳の芭蕉は地位も財産もなく、俳諧に一生をかけるため、この深川の隅田川べりに移り住んだ。

「それまでの俳諧は平俗な笑いや漢詩調のもので、五七五や季語の約束事もあってないようなものでした。それをワビとサビのある格調高いものにするため、芭蕉はここで思いをこらしたわけです」と同記念館の案内役をつとめている江東史談会の細田隆善会長は語る。当時、ここには門人杉山杉風（さんぷう）の生簀（いけす）があり、わずか四畳半ほどの草庵が、芭蕉の住居となった。

芭蕉は当初「桃青」という俳号だったが、のちに門人の一人が植えたバショウが繁茂、それにちなんで、本人自ら俳号を「芭蕉」に、草庵も「深川芭蕉庵」と名付けた。

日本庭園の一隅には、往時の面影を語る沼が掘られ、有名な〈古池やかわず飛びこむ水の音〉の俳句札とともに、バショウが植られていた。なお庵の跡地は同記念館から北へ約百五十㍍行ったところにあり、現在芭蕉稲荷が建っている。

同館は掛け軸約七十点のほか、短冊五十点、江戸時代の俳書など古文書三百冊、新刊書千二百冊を保存、随時交換しながら展示しているが、この資料の大半は元代議士の真鍋儀十さん（九）＝同区在住＝から寄贈された。真鍋さんは出身地・壱岐島に芭蕉と「奥の細道」に連れそった曾良の墓があることから、芭蕉に興味をもちコツコツと収集してきたが、戦前に集めた資料は、ほとんど戦災で焼失。約二千点の資料は戦後に再び集めたものだという。

館内の二階、三階が資料展示室で、二階は「真鍋コレクション」を中心にしている。そのなかには芭蕉の真筆が六点もあった。〈二日にもぬかりはせじな花の春〉―大晦日、元旦と飲み明した芭蕉が、二日は……の意味をこめて作ったという――の句をしたためた「芭蕉吟扇子」は長い間、長州藩が家宝として守っていたものだという。あとの五点は掛け軸で「句空宛消息」は元禄二年（一六八九）、愛弟子・句空にあてた手紙。また〈枯枝に烏（カラス）とまりて秋の暮〉の短冊には桃青の俳号が使われている。

「当時の俳諧では、枯枝やカラスなど自然の素材を生かした句は少なく、芭蕉にしても桃青の頃の作品で良いものは、この句ぐらいかなあ」と細田さん。この句は芭蕉が自然を写実的にとらえながらも、そこにワビとサビを表現しようとした時期の代表的なものといわれている。以後元禄七年（一六九四）までの十四年間に急速に詩境を高め、俳諧史上不滅の業績を残した。

そして、この年〈旅に病んで夢は枯野をかけめぐる〉の一句を残し、大阪で五十一歳の生涯を閉じた。

同館の二階資料展示室では、いま二つのテーマ展示を開催している。その二つが「絵と和本でつづる奥の細道」だった。翁が〝奥の細道〟に旅立つ三月下旬から、八月二十八日の大垣までの旅程のうち十四ケ所を江戸時代に出版された芭蕉関係の和本と、小杉放庵の絵でたどりながら、その時の俳句を紹介したものである。平泉……夏草や兵どもが夢の跡、最上川……五月雨を集めて早し最上川、越後路……荒海や佐渡によこたふ天河――など。〝奥の細道〟は芭蕉四十六歳の作品である。

庭園には、芭蕉の俳句を題材とともに紹介している

芭蕉の肖像画　中央が蕪村が描いたもの

いま一つは「芭蕉肖像画等」で十二点の芭蕉肖像画と、芭蕉に影響を与えたという歌人の宗祇、宗長、同じく幽斎や貞徳、昌琢らの「書」を展示している。芭蕉肖像画は俳人、与謝蕪村が描いたものを含め、十二点だが、この中で芭蕉本人を知っているのは英一蝶だけ。ほかは作者の想像によるが、全員が恰幅のよい体、柔和な顔に描いているのは面白い。

変わったところでは芭蕉遺愛の石の「カエル」。翁死後、幕末の頃に行方不明となったが大正六年、大津改で奇跡的に発見された。しかし戦災で再び所在が分らなくなったのに、昨年三月、同館の着工を目前にして江東区内で再発見された。数奇な運命の「カエル」である。

三階は全国の芭蕉碑の拓本が中心。なお館内は同会などが開ける会議室や研究室、俳句資料の閲覧ができる図書室もある。

オープンはことしの四月だが、これまで展示室入場者だけで八千人を越え、他の施設利用者を含めると同館も、数え切れません――というほど多い。

▽芭蕉記念館　東京都江東区常盤一―六―三　☎六三一―一四八
▽交通　都営新宿線森下駅下車徒歩七分、ほか都バスの便
▽休館　は毎週月曜日、祝日、年末年始
開館時間は十時から四時（研修室、会議室は午後九時三十分まで）
▽展示室観覧料大人百円。

バザーへどうぞ

日本汎太平洋東南アジア婦人協会（藤田たき会長）

十月二十五日（日）、恒例の大バザー〝PPSEAWA バザー81〟を東京・千駄ケ谷の津田英語会五階五〇一号室で開く。時間は午前十一時～午後三時まで。

特に今年は、三年後に日本で開かれる同会の国際会議に備えての資金作りのために行うもので、婦人洋品、雑貨、金属品のほか蒐集切手や陶芸品などが出品、販売される。入場にはバザー券五〇円が必要（当日券あり）。

〒一六四東京都中野区東中野二―二〇―二日本汎太平洋東南アジア婦人協会☎〇三―三六一―一四九〇。

婦人手帳

★★★　結婚詐欺というものは、だまされるのは男と相場が決まっていたのに、どうやら様変りしたらしい。昨今マスコミをにぎわした中年女性の結婚詐欺は手口といい、だましとった金額といい度外れだ。一人は高知署で逮捕された自称、装飾品販売増成静子㊟で、色白、丸ぽちゃのこの女に「結婚しましょう」と持ちかけられ裸にされた男性はわかっているだけで九人。金額にしていままでのところ総額四億円を越えるというからすさまじい。男は五十歳から七十三歳、資産はあるがヤモメ暮しで結婚相談所で再婚の相手を探しているところを釣り上げられた。

★★★　いま一つのケースは東京・豊島青果信用組合の板橋支店の十億円を越す不正融資事件で逮捕された岩城留美子㊟。この事件では同支店次長が交通事故で死んでいるが、一件の責めを負っての自殺ともいわれている。岩城はこの事件の前にも「裁判で勝訴すれば莫大な遺産が入る。子供と二人暮しなので結婚を…」と同じ手口で三人の男から金をだまし取っている。高知の静子の場合は何人もの男と同時進行の形なので、喫茶店を根城にし店員に頼んでポケットベルで連絡をとっていたという。

し岩城の場合は、新聞や小説から手口を学び、裁判所へ出掛けて公示などを参考に見せかけの文書を造っていたというから、結果は芳ばしくない形だが、女の活動範囲が広くなり、情報に肥えてきた、いわば〝地位向上〟の所産かも知れない。それにしても粗大ゴミ扱いにされ、老後の孤愁に堪えられず、はまり込んでいった男たちの姿は対象的にわびしい。

★★★　結婚詐欺での男女同権は困るが、女性の活動の場がここへ来て一段とひろがって来ているのは頼もしい。国連の「婦人の十年」が実を結びつつあるのだろう。いつもは悲観的な女子大生の就職もことしは好調らしい。日本女子大の場合、求人が最終的には三千社と見込まれ、一〇〇％就職も可能だという。就職やメンタルな部分だけではない。肉体的にも、マラソンはもとよりバレー、サッカー、ソフトボールなどでのママさん選手などの活躍ぶりを見ると、一般の男たちに比べ見劣りすることはない。ボディビルで逞しい筋骨を誇示している写真など、ただただ感心するのみだ。とするとやはり声は出してみるものなのだ。婦人の十年での主張は、「つべこべ喋るのは、はしたない」という古風な価値観を変え、「差別をなくせ」から〝男女〟ではなく〝人間〟として同じ立場で一と着実に実を結んでいる。

東京YWCA
（東京・駿河台）

今年が国際障害者年であることから、十月二十四日（土）、東京YWCA駿河台会館で「一九八一国連デー特別集会」を開く。

講師には田中澄江さんを迎え、「いま私たちに何ができるか―日本の風土の中で―」をテーマに講演を行うほか、短編映画「共に生きる世界」の上映、東京都盲人福祉協会婦人部によるコーラスもある。

時間は午後一時三十分～四時まで、会費三〇〇円。問い合わせは、〒一〇一千代田区神田駿河台一―八☎〇三―二九三―五四二一　東京YWCA国連デー八・一五委員会かボランティア・ビューロー委員会まで。

サンワ東京ビル（皇居前）

毎日の暮らしに
サンワをじょうずにご利用ください

●本店／大阪市東区伏見町4丁目
●東京本部／千代田区大手町1丁目
●店舗網／国内230余 海外22

みなさまのお役に立つ――
三和銀行

グループ あさ

ヒロシマとともに生きて

山下会誌

16号

山下会（広島）

そのイキの長さ

山下会。広島に住む主婦の学習サークル。現在、正メンバー十六人（協力会員ともいうべき人がほかに何人かいる）の小さい小さいグループだ。この小さなグループは、毎年一回「あさ」という原爆の体験集を出し続けてきた。毎年、ぶじ発行されると「書きつぐしたね、もう書くことはないね…」といいあった。が次の年になるとやはり〝書くことが出来て、メンバーは筆をとった。ことしも「あさ」は出た。

十六号。百五十四ページの堂々たる雑誌。千四百部（最盛期二千五百部、今年はメンバーの病気などあって少しへらした）。もはや主婦の学習グループの域を越えた仕事といえる。十七年がかりという（途中、一回出さなかった年がある）息の長さ。戦争の記録を出している主婦のグループは多いが、せいぜい五、六年で十七年というのは珍しい。同じ広島で新日本婦人の会広島県本部が原爆体験記集「木の葉のように焼かれて」を十六年間出しているが、これは大きな団体で、毎年、ちがう人の体験がのっている。小人数のグループで同じ人が毎年、毎年……というのはちょっと例がないだろう。

〝勤評〟がはじまり

この会が生まれたのは、二十年前のことだった。広島市庚午中学のPTA・地区懇談会がもとになり、勤務評定についての学習会を開いたのがはじまり。広島大学の先生をチューターに週一度集まった。柳田謙十郎氏の「歴史と人間」の読書会を開いたり、教育の問題、文学……テーマはいくらでもあった。

昭和三十九年の六月、中心メンバーだった山下朝代さんがこくなる。肝臓ガン、まだ三十九歳だった。原爆の後遺症で、昭和二十四年ごろから病院通いがはじまっていた。身体が悪いのに、会を積極的にひっぱった山下さん。集まる度に、メンバーは山下さんの思出話ばかりしていた。当時チューターをしていた浜本純逸氏（国語教育専攻、当時広島大学院生、現在・神戸大学）が、そんなに山下さんの思い出ばかり話しているのだから、いっそ追悼文を書き文集にしては……と勧めた。こうして同年十月、山下さんの思い出を集めた「あさ」の第一号が出た。ガリ版ずりで、八〇部刷った。「あさ」という題は山下朝代さんの〝朝〟と夜明けの〝朝〟の両方を意味する。ついでに、それまで名なしだった学習会の名も山下会と名づけた。

創刊号から16号までの「あさ」を前に、山下会の足どりを語るメンバー

友人の追憶から進展

子らのため被爆体験つづる

口コミで評判を

ほとんどの人が、筆をとるなど初めての経験だった。が、文を書き、編集する作業の中で、メンバーは、山下さんの生き方、その死と原爆が切り離せないこと、そして、その山下さんの思い出を書いた自分たちもほとんどが被爆者であるということに気づいた。自分たちもいつ原爆症死ぬかもしれないが、体験を子どもに伝えたい、戦争を未然に防ぎたい……。

第一号が出来たすぐあとから、第二号づくりの作業が始まった。

こうして書いてみると、まだ書きたらなかったこと、もっと掘り下げてみたいことが出てくる…。つぎの年も、その翌年も――。

「あさ」は続いた。いつの間にか、発行は、原爆忌の八月にあわせるようになった。会員外の原稿も毎年かなり集まるが、中心はメンバーの作品だ。

書くことで発見

はじめメンバーの友人に手渡して読んでもらったのが、口コミで評判を読み、六号の時は思い切って活字印刷にし、千部発行した。千部、二千部となると手渡しだけではさばききれない。このころから、山下会のメンバーは、毎年原水爆禁止世界大会や母親大会に出かけ、本を売っている。いまではもうすっかりおなじみとなり「今年も出ましたね…」とねぎらいながら求める固定読者も多い。

メンバーは始めから文を書くのが好きな人たちではない。隆杉京子さん。学歴は小学校、はじめ学習会で話しあっていることもよくわからず、あとでほかのメンバーに聞いて勉強したりした。一、二号の時は、白血球減少症で寝ていたので執筆しなかったが読んで感動した。字は知らなくても、私なりの体験をのこそう、書くことが平和の灯に近づくことになる……と書きつづけた。昨年隆杉さんは、今まで書きつづけた体験記の集大成のような大作を書き、十五号の巻頭をかざる。今年、隆杉さんは脳血栓で倒れた。身体の自由がきかなくなった。しかも六十五歳になっていた。が、隆杉さんは必死の思いでリハビリテーションをし、不自由ながら字が書けるようになった。短い文だが十六号に執筆している。

橋本幸子さん。はじめは、書き出してみると、涙ばかり出てこんなこと思い出したくないのに、と思った。何号かつづけるうち、伝えることの意味がわかってくると、書いた中味のことが気になり出す。思っていることの何分の一も書き表せない〝いらだち〟と〝書かなければ〟という気持ちの葛藤の連続、という。

山本美都子さん。樋口一葉の読書会をやっている」と聞き、一葉はいいな、と思って参加したのが昭和四十二年。ところが、一葉のあとで、みながベトナム戦争や原爆小頭症のことを話し出す。当時の山本さんには少しも面白くない。そのうち「あさ」四号を出すから体験記を……とすすめられる。なんでいまさら原爆を、と思い、みなに聞くがどうもわからない。わからないまま、しぶしぶ書くことにした。ところが〝私の父は亡くなりました〟と書いたとたん、涙がどっと出てとまらない。なぜ死なければならなかったのだろうと考えはじめた。書いたことによって考えたが変わった……。

固定読者もふえ

「運が悪かった」とあきらめていた主婦が、書くことによって、原爆とは何かということを考えはじめ、平和教育シンポジウムにも参加するようになる。そして毎年毎年頭がカラッポになるまで書きつくしたと思うのに、次の年になるとまた新しいことを思い出した。十五人の子供に二人の先生がついていますが、特に大工コーナーにつきっきりでもありませんが、ケガは少ないそうです。アメリカの家庭では修理から内装、かなり専門的な工事まで自分でする人が多く、日曜大工のお父さんの傍らで、いじらせてもらっている子が多いのですが、幼稚園で本物を与えている例は、珍しいと思います。

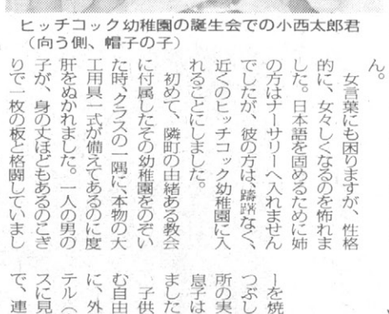
ジンジャー・ボーイ・クッキーを焼いたり、クランベリーをつぶしてジュースにしたり、台所の実習もあり、楽しいらしく、息子はよく台所を手伝いたがりました。

子供の独創性と自主性を育くむ自由時間が非常に多く、合間に、外遊びやショウ・アンド・テル（自分の宝物や持物をクラスに見せ説明する）を折りこんで、連帯感や協調性、発表能力を養っていました。これは、アメリカのナーサリーやキンダー教育共通の内容といえましょう。

彼には、姉にはないバター臭いナマリが日本語に入りました。多読の姉に比べ、気に入りの本を、くり返し読まされるタイプで、最高記録は「もりのへなそうる」でした。姉の日本語がしっかりしているのが、どれだけ彼のためになったかわかりません。親子の会話は母国語でも、きょうだい同志の会話は英語になってしまうのがふつうです。息子にはキンダーから小学校に進む前に「あいうえお」の読み書きを教え込みました。娘の場合は、ほとんど二人で読み書きを覚えましたし、彼も日本にいたら、入学前にわざわざ教えることはしなかったと思います。ABCはいつの間にか覚えており、英語に押される前に、早く日本語を固めたかったので、日本人は、日本語に比べて英語の読み書きは楽だと思いこんでいますが、本の読みはじめ（ひらがなだけの時）は日本語の方がむしろとっつきやすいのです。平仮名さえ覚えれば拾い読みができ、すらすら絵本を読む幼稚園児は珍しくありませんが、英語の場合、ABCがわかっても、スペルを一つ一つ覚えなければ読めません。小学校一年くらいでは自分で読みものの本を読める子の方が少いのです。

幼少時の言語は、小さいからまだ大丈夫と、とかくみすごされがちです。放っておけば現地語が第一言語になります。この時期から母国語を併用する習慣をつけると、それが、バイリンガル（両ヵ国語）修得への道にもつながります。歯磨きや、食事のしつけと同じように、言葉のしつけも、この頃が一番大切ではないでしょうか。（注「もりのへなそうる」渡辺茂男作・福音館）

あめりか子育て日記 ⑯



ヒッチコック幼稚園の誕生会での小西太郎君（向う側、帽子の子）

小西さやか

アレ息子が女言葉「あいうえお」教え込む

車が赤信号に来ると、後座席の息子が「あら、赤だわ。」――その言葉に、吹き出して後ろをふり向くと、きょとんとして大まじめな顔付です。

彼が日常接することのできる日本の男の人は父親一人だけ。その父親と顔を合わすのは朝食時か週末、しかも、ひと月の三分の一は出張で留守です。わが家はアメリカ家庭の同情を買う母子家庭でした。

息子は、その頃、お客様に「何になりたい？」と聞かれて「オフィスに行きたい」「どなってみたい」と答えるほど、父親を崇（あが）めていたのですが、母子家庭同然の日常では、姉や私の感化が大きく、いつの間にか女言葉が移っていたのです。同じ年頃の日本の男の子達と、努めて遊ばせるようにしましたが、家が離れているので、しょっ中というわけにもいきません。

女言葉にも困りますが、性格的に、女々しくなるのを怖れました。日本語を固めるために姉の方はナーサリーへ入れましたが、彼の方は、躊躇なく、近くのヒッチコック幼稚園に入れることにしました。

初めて、隣町の由緒ある教会に付属したその幼稚園をのぞいた時、クラスの一隅に本物の大工用具一式が備えてあるのに度肝をぬかれました。一人の男の子が、身の丈ほどもあるのこぎりで一枚の板と格闘していまして、別の〝切り方〟を考えたり、新しい構想が出てくる。

「もうすっかり書きなれたかな？　とても、とても。書くことは苦手ですねえ。私の分だけ読んでくれなきゃいい、なんて思いながら売ってますよ」

「原水禁大会で売っていたら、これは何の本ですか、と聞かれて、これこれと説明したら、買って下さって、目次を見ながら、それであなたはどなたですと」それを書いておられます、と聞かれて恥ずかしってねえ。よっぽどひとの名前をいおうかと思ったけど、正直者じゃねえ、やはり本当の名をいってしもうて……。」

毎号買ってくれる固定読者も多い。こんな一人・東京の大学の先生が来広したとき、山下会を訪ねてくれた。メンバーが自己紹介しようとすると、「ちょっと待ってください。あててみましょう」といって、あなたは誰さんでしょうと全部あててしまった。毎号読んでいるので、名のらなくても、感じで誰かピタッとわかったのだ。

こんな熱心な読者がいることが会員をふるいたたせる。

来年も再来年も

以前は週一回開いていた学習会も、会員それぞれが仕事があったりして忙しくなったため、いまは月一～二回。五月ごろになって「あさ」編集時になると、連日のように集まる。どう書こうか、から始まって、第一稿をめぐって大討論。「ズケズケいいあって、大ゲンカしながらやります。何しろ千何年一しょにやっていますから、親、きょうだいより近しい仲……。」

山下会の長い歴史の中で、メンバーはそれぞれ年を重ねた。四十代一人、五十代三人、六十代二人……。が、誰も〝年だから〟などと弱音をはく人はいない。来年も再来年も、戦争から子どもを守るという願いをこめて、がんばろうと思っている。「書くことは辛いが、辛いだけではない。書くことが生きている証し……。」

▽山下会、「あさ」への問いあわせは　広島市西区庚午南二―七―三　楠登喜子さんあて。

世界のなかの日本

生命の危機もしばしば

プラント輸出第一線の苦労

最近は「日本商品の輸出力が強すぎる。輸出をひかえてほしい」という要請があちこちの国から寄せられ、自由貿易の旗じるしをかかげながら実際には協定・管理貿易の形を余儀なくされる例がふえています。

そんな中で、相手国から歓迎されている輸出がプラント輸出ですが、大規模な工場設備や電力、輸送、通信、港湾施設などの建設を引き受ける大事だけに、プラント輸出にはそれなりの苦労があります。

米国やEC諸国は、プラント輸出の先進国で旧植民地諸国を中心に、強固な実績をもっています。それに自国内の景気停滞という事情も加わって、各国ともプラント輸出にかける意欲は非常に強いものがあります。

米国は官民共同で〝強いアメリカ〟の再現を目指しており、商務省と国務省が強力に民間業界を支援しています。西ドイツや英国、フランスも政府の中にプラント輸出促進機構を設けたり経済外交とからみ合わせてプラント輸出の拡大を目指しています。

そうした激しい国際競争の中で、わが国のプラント輸出は総合商社の情報力、組織力を軸にして（多くの場合、企業集団のワクをこえた日本連合を組んで）がんばっています。

ところで、激しい国際競争に勝って日本勢が建設事業を受注した後も、いろいろ苦労がたえないのがプラント輸出です。

たとえば、今年春イランで完成した全長三百二十キロにおよぶ四十万ポルトの送電線と変電所設備の場合は――受注に成功して工事に着手したのは七七年春、まだパーレビ国王が勢威をふるっている時代でした。その後の暴動、ホメイニ革命そしてイラン・イラク戦争という当初は想像もできなかった大事件が発生、その影響がこの送電線工事に及ばぬわけはありません。

この工事は、総合商社の一つである住友商事が主契約者になり、送電線を住友電工、変電所を三菱電機が担当して共同組織をつくり、インド人、韓国人、イラン人労働者を使って進行したのですが、革命さわぎでインド人や韓国人は帰国、イラン労務者は権利の主張ばかり激しく、時には工事を妨害するような事態も生じました。工事を発注した電力公社も幹部が総入れ替えになって工事代金の支払いも大幅に遅延。その間にもイラン人労務者には賃金を払わねばならぬので日本側職員がポケットマネーを供出して、労賃の一部を立替え支給するというような苦労もありました。

熱砂の国イランといっても、この工事をする標高二千メートルから二千六百メートルの山地は、冬には雪に閉ざされるといった気象条件の厳しさもあります。

関係者は、銃を持った暴徒に襲われたり、現地労務者になぐり倒されたりという生命の危険を何回も味わされた四年間の難行苦行でした。

「こんな苦労が、今日も世界のどこかで続けられており、総合商社マンは、その先頭に立ち渦中にとびこんでがんばっているのです。

（日本貿易会商社委員会調べ）

すばらしくて無料

―所沢市民青空コンサート

先生の〝主任〟反対の運動

全国的に晴れた秋分の日、埼玉県所沢市の航空記念公園にある野外ステージで、「所沢市民青空コンサート」が開催された。

新星日本交響楽団による「新世界」や「天国と地獄」などが次々演奏され市民の拍手を浴びたが、この演奏会じつは「所沢市主任手当拠出金管理委員会」の主催という一風変った演奏会で入場無料。演奏会の運営費は所沢市内の小・中学校の主任教師が拠出した〝主任手当〟でまかなわれているからである。同主任手当拠出金管理委員会は、その名の通り〝主任手当拠出金〟を管理しているが、これは三年前に文部省が実施した主任制度に反対しようと同市内の教師と父母が連帯して発足させたもの。ここで、主任制度について、同委員会の運営委員でもある小手指中学校の坂口啓一教諭に解説してもらうと――「学校教育というのは学校の全職員が協力して行うもので、その責任は共通で同等です。ところが主任制度は教務や学年、生徒指導などの主任には一日二百円の手当を支給しようというものだが、各教科主任には支給されない。つまり主任制度によって先生同士の分裂や、あるいは出世欲が旺盛なものになってしまう。

大盛況だった所沢市の青空コンサート

平和への提言

草の実会が特集

「草の実会」では、機関紙「草の実」の抜刷「一九八〇年代を迎えて平和の問題を考える・三十一人提言集」を発行、平和の問題について、会員以外の人びとに広く読んでもらおうとよびかけている。

朝日新聞、家庭欄の「ひととき」の投稿者から出発した「草の実会」は、このところ平和問題に真剣に取り組んでいるが、昨年は平和を考える講演を三回行い、その記録を抜刷の第一集として発行した。その後、一人か二人の話を聞く講演会より、もっと多くの人の意見を聞きたいと、昨年暮、草の実会の機関誌を読んでいる人、平和問題に関心のある人などに①日本の現状についてどう考えるか②私たちは何をしなければならないか、何ができるか、の二点についてアンケートを求めた。回答の到着した三十一人の人の意見を「草の実」に四回に分けて収録した。が、「草の実」を読んでいるのは、会員と定期購読者だけいつも「草の実」を読まない人に、一人でも多く平和の問題に関心を持ってもらいたいと、「草の実」からアンケート特集のところだけを集め、一冊にまとめた。アンケートをよせた三十一人は、朝倉摂（画家）、伊藤壮（山梨大教授、日本被団協事務局長）、家永三郎（歴史学者）、佐多稲子（作家）、富山妙子（画家）、丸岡秀子（評論家）、豊田利幸（名古屋大教授）氏ら。

この抜刷を希望の人は、草の実会平和問題研究グループ　斎藤鶴子さん＝東京都中野区上高田一―三九―一四、☎03・386・6970＝まで。頒価　一部　百五十円、送料七十円。十冊以上、送料無料）

アテンションプリーズ！ガスは正しく安全に！

ガスを安全にお使いいただくために――

換気・ゴム管・もとコック

ゴム管

ガスゴム管もときどき点検を

ゴム管はコックの赤い線までカッチリと差し込んで、ゴム管止めもお忘れなく。古いゴム管は、はやめにお取りかえください。

換気

換気にはくれぐれもご注意を

小型ガス湯沸器をお使いのときは、点火と同時に、窓をあけるか換気扇をまわして、換気をお願いします。

もとコック

お出かけ前、おやすみ前にはもとコックの確認を

ふだんお使いになっていないもとコックには、必ずゴムキャップをしておいてください。

大阪ガス

使いなれていますから、サランラップです。

品質が手につたわる――

サランラップ

旭ダウ株式会社

サランラップ販売株式会社

東京／〒100 東京都千代田区有楽町1-7-1（有楽町電気ビル）　TEL 03(507)2868

大阪／06(347)3991　名古屋／052(201)6522　札幌／011(221)1259　福岡／092(721)7285

サランラップは旭ダウの登録商標です。